

健康への

メッセージ

シリーズ⑦

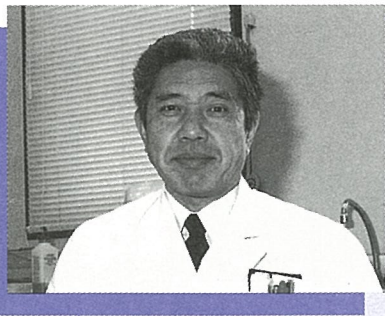
避妊薬「ピル」の正しい服用

みなさんこんにちは。きょうは、9月より新しく発売になった避妊薬「ピル」の紹介をさせていただきますと思います。

避妊、すなわち望まない妊娠を避けるために、ひとは昔からいろいろの工夫をしてきたようです。現在日本で、もっともポピュラーに用いられている方法はコンドームですが（避妊をしているカップルの50〜70%と推定されています）、ノルウエーなど一部の国では避妊リング（子宮内に数センチの器具を入れて避妊する方法）が一般的で、またイギリスやオランダでは、これからお話しします「ピル」が一番好んで使っているようです。これら以外にも、膈外射精法や荻野式（排卵日前後の性交を避ける方法）、また卵管を縛ってしまう方法（不妊手術：アメリカや中国で多い）や、男性側の輸精管を処置し（パイプカット）避妊する方法などがあります。いずれの方法にもそれぞれ長所・短所があり、好みによって使い分けられています。

さて、ピルは、正確には「経口避妊薬」といいますが、その最大の特徴は、女性ホルモンを含んだ「薬を飲む」ことにより避妊ができるという点にあると思います。ただし、コンドームなどとは違い、いざという場面であわてて服用するものではありません。避妊を希望する女性は医師の処方箋により出された薬を毎日1個ずつ服用しておくわけです。すなわち、卵胞ホルモンと黄体ホルモンという2種類の女性ホルモンが含まれる錠剤を1日1個ずつ21日間飲み続けます。そうするとホルモンの働きで排卵が抑制され妊娠が成立しません。21個飲ん

東陽病院 伊地知幹雄 産婦人科医師



だら月経を起こすために7日間休薬します。そしてまた21日間飲み7日間休むというサイクルを避妊する期間ずっと続けます。コンドームやリングなどの避妊法に比べ、ピルによる避妊では、薬をきちんと服用していれば間違っただけで妊娠してしまうという確立は非常に少ないといわれています。ただし、飲むのを忘れた場合や、ひどい下痢の時やある種のくすりを併用したときにピルの成分を腸から吸収できなくなり避妊に失敗することがあるようです。

心配な副作用としては、吐き気や頭重感の訴えが比較的多いようであるが、数パーセント以上の人にみられます。また少量ではありますが不正出血もみられることがあります。しかしながらこれらの症状はわりとはじめのうちには多いのですが、周期を重ねてくるとだんだんなくなっていくそうです。

頻度は少ないのですがいったん起こった場合に危険を及ぼす副作用としては、静脈血栓症や心筋梗塞、脳卒中といった循環器の疾患があげられます。特に喫煙者は非喫煙者の5倍も発症率があるので愛煙家にはピル以外の避妊法をお勧めします。

いっぽう子宮癌や乳癌に関しては、ピルのもつホルモンとしての働きや、産婦人科受診による早期発見のためにいくぶん好ましい結果が出ています。

最後に、性感染症が増えてきている今日、いかなる避妊法を選んだにせよ感染予防のためのコンドーム使用をおすすめいたします。

※東陽病院の休日当番日

12月26日(日)・1月1日(祝) 午前9時〜午後5時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎0413335

千葉のそら
みんなの力で
さわやかに

12月は大気汚染防止
推進月間・1月まで
ぐるつと青空キヤン
ペーン実施中!

冬場は空気がよどみやすい気象条件が多く、特にこの時期に大気汚染物質の濃度が高くなりやすくなっています。みなさんも次のことに心がけ年末年始を過ごしましょう。

- ◎家庭では：
 - ①暖房機器の室内温度は20℃を目安に設定する。
 - ②暖房を必要につけっぱなしにしない。
- ◎自動車に乗るときは：
 - ①無駄なアイドリングを控える。
 - ②急発進、急加速、空ぶかしやスピードの出しすぎを控え、無駄な燃料消費をしない。
 - ③渋滞を招く路上駐車はしない。
 - ④定期点検整備を適切に受ける。